

学生之新聞

がくせいのにしんぶん — 446号

460-8511 中日新聞 教育報道部
youth@chunichi.co.jp



名工大 技術者養成プログラム

名古屋工業大(名古屋市)に通うアジアの留学生たちが、日本の自動車産業への就職を目指し、国が支援する特別プログラムでものづくりの神髄を学んでいる。少子化で若者が減る中、高度な知識も技能を持つアジアの留学生は日本にとって大事な人材だが、プログラムの運営には課題もある。(教育報道部・川上義則)

プログラムの名称は「自動車産業スーパーエンジニア養成プログラム」。国が奨学金を出し、名工大と財団法人中部生産性本部などがかりキュラムを運営。国内の自動車関連企業約四十社が協力をする。

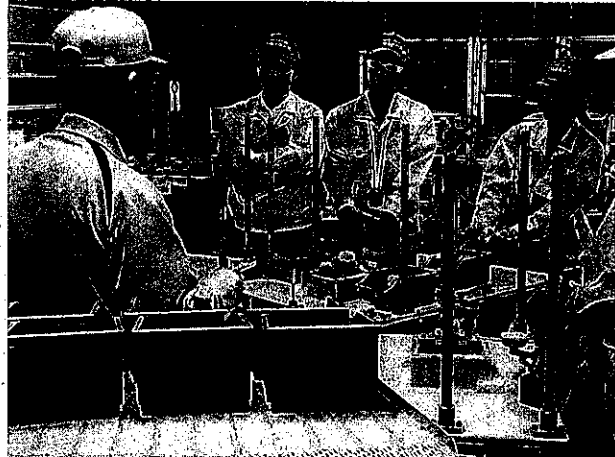
留学生は二年間、名工大の大学院で学びつつ、自動車工学や日本語ビジネス会話などの特別授業を受ける。東海地区の企業でインターンシップ(就業体験)や、工場の作業を見直す「カイゼン」の研修も経験する。

スタートの二〇〇七年度は四人、〇八年度は五人、〇九と一〇年度は各十人がプログラムを受け始めた。受講中の留学生に話を聞いた。中国出身で情報工学が専門の張翹さん(三)は昨年八月、愛知県内の大手部品メーカーでインターンシップを経験。カーナビの地図ソフトの開発に参加、最も省燃費の経路を探す方法を調べた。

張さんは「コンピュータ解析の知識はあるが、省燃費について知らず、日本語の論文で勉強した。来日後に本格的に日本語の勉強を始めたので苦労した」と振り返った。

シンガポール出身のコンクング・レング・ギャル

アジア留学生に車づくり神髄を



カイゼンの実習に取り組む張さん(左から2人目)とギャルピンさん(左から3人目)＝愛知県安城市のデンソー研究センターで(名古屋工業大提供)

ピンさん(三)は自動車部品を造る中小企業を三回訪問し、工場の作業見直しを手伝った。

ギャルピンさんは特別授

「カイゼン」を学ぶ

業界低迷 就職先など課題も

業で学んだ知識を基に、指問などに良くなった。知識習得の大手機械メーカーBや工場の代表と改善点を出し合った。「工場は私たちの意見を取り入れ、訪む中、日本企業は高い経済



研修の様子を説明するギャルピンさん(左)と張さん(右)＝名古屋市昭和区の名古屋工業大で

成長が続くアジアでの事業拡大を迫られている。名工大のプログラムには留学生に日本企業のアジア展開のけん引役にならしてもらいたいがある。

プログラムには課題もある。一つは就職先。これまでの修士生は博士課程に進んだ一人を除く八人が日本

企業に就職したが、全員が自動車業界に進んだわけではない。中部生産性本部の担当者「自動車業界の状況が回復していない上、出身国の期待を背負う留学生は世界的に有名な大手メーカーを目指し、採用したい日本企業とのミスマッチもある」と説明した。

日本政府の財政難で鳩山政権が留学生関連の予算を減らしたことも影響する。プログラムは予定より一年早い来年度から、支援企業の業種を拡大し民間資金中心の運営に移行する見通し。

プログラム担当の名工大大学院工学研究科の佐藤博教授は「優秀な留学生にもっと来てもらうには、日本社会全体で留学生を受け入れることが重要だが、必ずしもそうっていない」と懸念した。